



川 事 事 第 214 号

平成20年10月10日

国土交通省道路局長 殿

田川郡川崎町長 手嶋 秀昭



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記の件について、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

福岡県川崎町

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

基幹道路の完成について

田川地区の自立・活性化につながる、企業誘致・地場産業の育成にむけて、東九州自動車道の早期開通とこれにつながる、201号線の4車線化及び、北九州空港とのアクセス道路を早期に実現していただきたいと思います。

また、当地域は福岡や北九州都市圏まで約一時間という通勤可能な距離にあり、201号バイパスや322号線の早期開通により、さらに発展が見込まれるものです。従って、国道201号～322号のバイパス建設の早期完成に向け、一層のご尽力をお願いします。

田川循環道路の建設については、失業対策事業の制度終息に伴い建設途中で虫食い状態のまま中断しています。

この完成も、田川地区振興に向けて不可欠の課題であり、早期完成に向けてのお力添えをお願いします。

②－１ 地域の現状と抱える課題

〇〇都道府県川崎町

○ 現状

当地域における現状は、旧産炭地域の負の遺産をいまだに引きずり地域活性化に大きな足かせとなっています。
各失業対策事業や地域改善対策事業・鉱害復旧事業などの相次ぐ終息に伴い、失業者の増加や商店街の閉店が今なお続いています。企業誘致もままならず、雇用の場の確保は依然として厳しい状態にあり、生活保護所帯の数も高い率で推移しています。
各自治体に於いても、三位一体改革などによる交付税の減額・連結決算の導入で、町独自の道路整備はもちろん、現行の道路の維持補修さえままならない状態です。

○ 課題

基幹道路の整備が、地域活性化のための企業誘致等につながる
ので、ぜひ必要と考えますが、住民が普段から使用する生活道路
についても、維持補修費の助成を受けられるように、できないだろう
かと思います。
特に、最近では地域住民の生活道路に対する要望は強くなっており、
変則的な交差点の改良、曲がりくねった見通しの悪い道路の改良・
側溝の改良等と課題は山積みしています。しかし、今日の財政事情
の中では如何ともし難く手をこまねいている現状です。これらの
改良事業の促進に向けても、特段のご配慮をお願いします。

②-2 地域の目指すべき将来像

福岡県川崎町

当町は「炭鉱の町から太陽に向かう町へ」を「キャッチフレーズに、新エネルギーを導入した活力ある町を目指し、ゴミの分別収集などによるCO2削減や温暖化防止を推進しています。そのため、今年9月議会で「自然にやさしい地域づくりのための川崎町環境保全条例」を制定し全町あげた取組みを進めるようにしています。具体的には、循環型社会へ向けた取組みとして、廃棄物の減量化、生ゴミを活用したバイオマス事業の取組み、廃植物油からバイオディーゼル燃料を精製し資源の再利用化を図るなど計画の具体化を目指し、地域の環境整備を行っていかうと考えています。

地域が活力を取り戻すためには、雇用の場の確保がきわめて重要であります。そのため、企業誘致に力を入れるとともに、一方で交流人口の拡大に向けた取組みも進めています。観光資源の発掘及び開発、並びに観光ルートの確立等、これから新たに取組みを進めなければならない課題も山積みしています。しかし、これらの課題に取り組んでいくためには、何といても道路基盤の整備は欠かすことの出来ない最低条件でもあります。道路関連財源の安定的確保に向け、なお一層の御配慮、御尽力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

様式 ④
福岡県川崎町

福岡県川崎町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	東九州自動車道の早期開通・これに通じる 201号線の4車線化及び322号線バイパス の早期完成 田川循環道路の早期完成	流通の拡大や利便性の向上 企業の進出	
・総合的な交通安全対策及び危機 管理の強化	右折レーンの設置やバスカット等の設置 変則的な交差点の解消 曲がり角等の視距の確保	慢性的な交通渋滞の解消 交通事故の防止	
・良好な生活空間・自然環境の 形成	生活・通学道路の整備	生活環境の改善	
・			